

教 育 長 様

校番 22 吉田 高等学校長

**「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校
平成30年度 報告書**

研究の概要

研究の目標（※計画書に記載したものを再掲）

吉田高校全体で育成する「資質・能力」を明確化し、ルーブリックを作成したうえで、探究的な学習を総合的な学習の時間や全教科で試行的に展開し、その中で生徒が取り組んだ学習成果物を「ポートフォリオ」として蓄積することで、評価方法を具体化する。

研究内容（※対象，時期，方法を含む）

○総合的な学習の時間等における「探究的な学習」のカリキュラム開発について

本校では、次期学習指導要領の「総合的な探究の時間」を視野に入れ、探究的な学習を実施する。1年次「産業社会と人間」において探究に必要な基礎力を身に付け、2～3年次「総合的な探究の時間」においてより実践的、具体的に探究型学習を展開する計画である。

- ・「課題探究」プロジェクトを立ち上げ、学年を越えたテーマ別の探究グループによる学習活動を開発する。
- ・各探究テーマに係る全ての教科等の関連を明確化し、テーマ別のカリキュラムを作成する。

(1) 1年次「産業社会と人間」計画

「探究的な学びの基礎づくり」をコンセプトに、大きく2期に分けて実施する。前半（4月～7月）は2年次以降の選択科目受講に備えたキャリア学習、後半（9月～3月）は探究的な学びの基礎的カリキュラムを展開する。特に本年度は、1年生の総合的な学習の時間においてその試作的カリキュラムをつくり、現在実施しながら課題を検証している。

[本年度1学年 総合的な学習の時間 実施済及び今後実施予定のカリキュラム]

① 基礎演習期

探究活動を進めるにあたって必要とされる知識や技能を習得し、今後の議論を円滑に進めるためのベースづくりに取り組む。

- 10月17日 後期オリエンテーション
- 10月31日 基礎演習①クリティカル・シンキングとは何か
- 11月7日 基礎演習②課題を4要素で整理する
- 11月14日 基礎演習③因果関係を学ぶ
- 11月21日 基礎演習④帰納的議論を学ぶ
- 11月28日 基礎演習⑤情報の収集について
- 12月5日 基礎演習⑥議論の手法

② 実践演習期

安芸高田市が推進している事業のビジョンや課題の説明を受け、自分たち自身で地域の様々なテーマについて論議することで、自分自身の問題として主体的に捉える。

- 12月12日 全体講演「地域おこしの現状と課題」 県立広島大学准教授 堀田 学先生
- 12月19日 班別グループワーク①
- 1月9日 安芸高田市役所講演会
- 1月16日 班別グループワーク②
- 1月23日 班別グループワーク③
- 1月24日 学習成果発表会
- 2月以降 個別パフォーマンス課題の作成・評価

2年次以降については現在ほぼ計画作成を終え、先進校を視察しながら探究科設置委員会にて議論を行っている段階である。

(2) 2年次・3年次 課題探究実施計画

2年次4月	探究オリエンテーション
5月	社会人講話・出前講座・各探究分野に必要な知識の習得
9月	個人・グループでの探究テーマの決定
10月	各探究テーマに関する探究の実践
1月	課題探究発表会
2月以降	個別パフォーマンス課題の作成・評価
3年次4月	ポスターセッションによる探究成果の中間発表
5月	各探究テーマに関する探究の実践・下級生への知識の伝授（アドバイザー的役割）
8月	オープンスクールでのポスターセッション
9月	課題探究発表会・進路探究レポート（論文）の作成・志望理由書作成
1月	学習成果発表会でのプレゼンテーション

○資質・能力の評価について

各教科や総合的な探究の時間における「身に付けたい資質・能力」を以下のように明確にし、その上で各授業での評価活動に取り組んだ。

- (1) 理解力…与えられた課題を理解できる力
- (2) 思考力…いろいろな角度から解決の方向を考察できる力
- (3) 判断力…事象を分析し、解決のための構想を立てる力
- (4) 表現力…考えた結論を他者に伝えることができる力
- (5) 探究力…課題解決を目指して主体的・協働的に真理の追究を継続する力

学習活動の記録（ポートフォリオの作成）を通して、「探究人」としての到達段階を適切に評価できるような評価システムを構築することが最優先事項と考えたからである。

全体では3回の研修会を実施し、3年間を通した計画を示した上で評価活動の取組について説明した。

本校では、蓄積するポートフォリオを

- ① パフォーマンス課題
- ② レポート
- ③ 活用問題

の3つに大別し、いずれかを選んで各タームに1回実施することにした。

今年度の成果と次年度の課題（※仮説の検証を含む）

○総合的な学習の時間等における「探究的な学習」のカリキュラム開発について

探究的な学習を展開するにあたって現在最も課題意識を感じているのは、授業者側のファシリテーターとしての資質・能力をいかに向上させるかという点である。様々な意見に対して、十分に返したり、その後の展開に活かしていくことが出来ず、せつかくの生徒の意見が深まらないままに終わってしまうことが多い。これは総合的な学習の時間に限らず、すべての授業・教育活動に共通した本校の共通課題である。議論の本質から外れた議論に対して、いかにしてその問題点を明らかにし、わかりやすく返していくのか。あるいは、生徒達自身が、自分の思いをうまく言葉にできないとき、いかにしてその思いを汲み取り、サポートして円滑な討議を促進していくのか。3年間の最重要課題である。

○資質・能力の評価について

初年度でもあり、本年度はポートフォリオの「蓄積」をキーワードに、まずはパフォーマンス課題及びルーブリック評価を1学年の教科担任の所で実施した。研修会の中で様々な意見が出され、以下のような課題が整理されている。

- ・5つの評価観点が複雑で、十分に評価できていない。毎回すべての資質能力について評価するのではなく、そこから2つくらいに絞ってルーブリックをつくることを検討している。
- ・授業の中でどのようにポートフォリオを活用するのか、未だにコンセンサスを得られていない。授業展開と連動し、より実態に即した課題にするには更なる実践・研究が必要である。特に、公開研究授業との関連性が薄く、次年度は全員で1つの授業を観察（特に、授業者ではなく生徒の学習活動に主眼を置いた観察）して、職員全体の事後協議・研修会を実施する必要性を感じている。